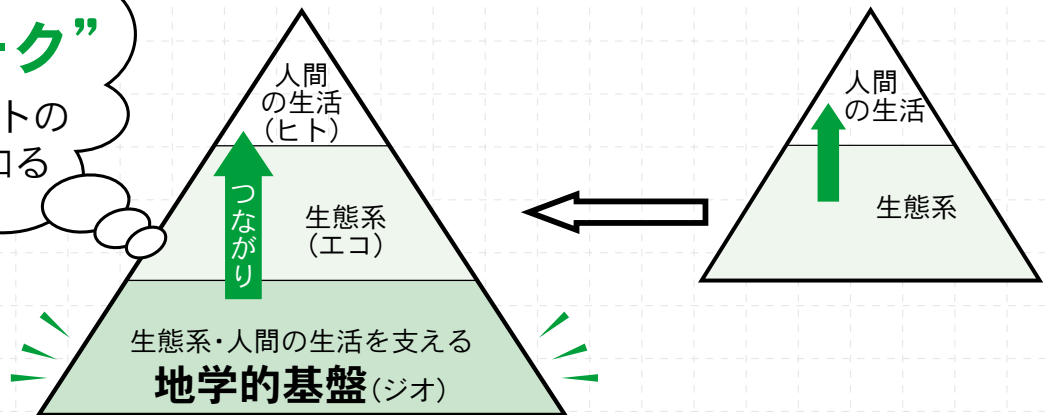


## “ジオパーク”

ジオ・エコ・ヒトの  
つながりを知る

## 秋

晴れの中、研修会場のある霧島市役所の窓からは、桜島がよく見えます。その桜島には、いつ見ても雲がかかっています。山に雲はつきものだと思いますが、地元の方にその話をすると、「雲ではなくて桜島の噴煙ですよ」とのこと。八峰白神ジオパークで働くわたしには、想像できない光景です。

## 霧島・隠岐ジオパークから学ぶもの

10月から11月にかけて、島根県隠岐の島で開催された『日本ジオパーク隠岐大会』と、鹿児島県霧島市で開催された『日本ジオパーク全国研修会』に参加しましたので、その模様をお知らせします。

## 日本ジオパーク隠岐大会

全国大会の会場は、島根県隠岐の島を中心とした隠岐ジオパークです。隠岐の島は、地球深部のマントルから上昇してきたマグマで形成されました。そのため、世界でも珍しい岩石が見られる島として有名です。

隠岐の島は、後鳥羽上皇が流された地として有名ですが、本土から流れてきたものはそれだけではありません。普通なら存在しない地方の植物や他地域の文化・芸能なども隠岐が島だからこそ、そこに留まっているのです。

## 日本ジオパーク全国研修会

研修会の会場となった霧島ジオパークは、霧島連山のお膝元にあります。ここには、2011年に噴火したことで記憶に新しい新燃岳など今なお活動している火山があります。日本国内に火山は多くありますが、今なお噴火している火山は数少ないでしょう。

霧島では、テレビで桜島上空の風向きを毎回ニュースで流しています。これは火山灰が降ってくるかを知るためです。この地域では火山というものが身近にあり、それを利用して生活しているのです。



噴煙を上げる桜島

このように2つのジオパークには、ここにしかないジオ資源があります。そのため、遙か昔から注目されていた土地でした。両地域共に日本書紀の国作り神話に関係した土地なのです。

ジオ資源がここにしかない大地を作ると、その上で繁栄するエコがここにしかない生態系を作り、その中で生活するヒトがここにしかない文化や伝統を作る。ジオ・エコ・ヒトの切っても切れない関係が、ジオパークのジオストーリーを作ることであらためて学びました。